



《発行所》
若葉台
第一住宅管理組合
坂戸市千代田4丁目7番30号
電話 049-283-7950
メール: kanri@wakaba1.com
http://www.wakaba1.com/

安全・安心の住環境 をめぐって

若葉台第一住宅管理組合規約第6章管理組合第2節管理組合の業務第34条十二に「防災に関する業務」という項目が規定されています。具体的には若葉台第一住宅自主防災規定を定め自主防災会を設置しています。

当団地における自主防災について必要な事項を定め、火災、震災、その他の災害の発生に対し当団地住民の安全確保と被害拡大防止を図り、併せて防災体制の充実を図ることを目的としています。災害発生時には管理組合理事長を災害対策本部部長として各号棟から選任された防災委員を構成員とした自主防災組織が有ります。居住者の皆様方も日頃から自主点検、対策



で点呼の上、二手に分かれ団地内及び周辺道路をパトロールします。お揃いの帽子と、ベストを着用しポケットには緊急通報用の携帯電話、手には懐中電灯を持って暗闇を確認しながら進みます。団地内駐車違反の車両には駐車違反ステッカーを貼り注意喚起をします。

夜間、緊急車両進入等の妨げになります。迷惑駐車をしないうちにお願いします。街路灯は夜間でも無ければ点検出来ない為、入念に確認します。電球切れは無いかな。夏季には不審者情報等が多くなる為、慎重にパトロールを行っていただきます。短時間で微力ですがこうした活動を通して少しでも安全安心に寄与する様に努めています。

(広報・成田 勇)

自主防災組織が2回目の 防災訓練実施

9月7日(日)午前8時お手元の携帯電話が鳴り出し驚いた方もいるのではないのでしょうか。坂戸市ではこの日、大規模地震災害に備えた総合防災訓練を行い、緊急速報メールの訓練配信をいたしました。防災については7月6日(日)住民と



消防署による防火訓練・講習会を行っています。今回は梯子車、レスキュー車、消防自動車に参加しました。開始10分後通報があり当団地に出動していた消防自動車1台が出動していきましました。参加者の中には一瞬緊張が走りましました。国道で交通事故発生とのことでした。残された隊員により、煙



中通過訓練、初期消火訓練、通報訓練、梯子車による高層階(26号棟8階)からの救出訓練が実施されました。梯子車による

長・防災委員・民生委員など自主防災組織構成員57名の参加があり、団地内の防火・防災施設の見学をしました。防火水槽消火栓、受水槽、ポンプ室では中に入り、各棟に配水されるポンプや電気



訓練時は一般の参加者も加わり100名近くがその様子を見守りました。9月7日(日)には、独自に10時から自主防災委員会を開催しました。小雨模様の中、役員・棟

設備の説明がありました。また、送水ポンプが停止した場合、受水槽内の水を取り出す緊急水栓の取り扱い方が示され、災害時に飲み水が確保される事への設備がある事を知り大変強く感じました。この様な機会を通して団地の機能を確認出来、大変有意義でした。なお前回もそうでしたが、非常時用アルファ米と乾パン(埼玉県災害時備蓄品で入替前の提供品)が参加者に配られました。

(広報・羽磨千賀子)

文字摺草

何年前百歳になる高齢者を地域の民生委員が訪問したところ、既に亡くなつていて、家族が偽つてその方の年金を受け取っていた事件がありました。民生委員の役割が問われました。民生委員は正しくは民生委員・児童委員と呼び児童委員も兼ねます。また、児童福祉問題を専門に担当する主任児童委員もいて、坂戸市は5地区に分かれ145名が活動しています。当団地は3名の民・児委員、1名の主任児童委員がいて、住民の中から選ばれた厚生労働大臣が委嘱します。任期は1期3年で再任もあります。住民の心配ごとの相談や福祉サービスを利用するためのお手伝い、不登校や児童虐待防止の課題にも対応しています。東日本大震災後は、特に災害時に支援を必要としている方孤立者の確認を重視していますが、いづれも地域の方々の情報提供や協力なしでは解決できません。まずはお隣と顔を合わせたらご挨拶を。当たり前の事が安心・安全な地域づくりの第一歩です。(千)

少子高齢化社会と言われるようになって久しくなります。当団地も開設されて36年が経過し、中年の夫婦だけの所帯や一人暮らしの所帯が増え、高齢化は進んでいます。すでに直面している問題ですが、少子高齢化をどう受け止めたらいいいのか、座談会を企画し今回

「一口で高齢化と言っています皆さんにどのように映っているのでしょうか。」

・高齢者とは一体幾つから言うのかしらね。なんだか良くわからないんだけど。

・年齢の定義は難しいじゃない。人口統計では65才以上で区分しているけど、現役で活躍している人もいるし、65歳以上というのには抵抗を感じる人が多いのではないかしらね。

・市から敬老の日の招待が来た時とか、健康保険の自己負担が変わった時なんかは自覚するけど、健康だと正直日常的には意識しないわね。

・70歳になった時民生委員の方の訪問を受けたん

は高齢化に焦点をあてて考えてみることにしました。ご協力いただいたのは飯泉利子さん、木内豊子さん、齋藤紀子さん、佐藤浩さんの4方と広報部・羽磨千賀子さん・成田勇さん・佐藤の計7名で日頃思っていることを自由に出し合ってみました。

ですけど、正直言つてドキッとしたのを覚えている。自分もそういう時が来たんだと・・・

「実際変化を感じることはありませんか。」

・救急車が来る回数が増えたように感じていたんだけど、最近慣れっこになってしまいわね。

・声かけが少なくなっているように思う。声かけは簡単なように思いますが、おはよう、こんにちは、はこの場所でもしようと思っているんですよ。何故かということがあるのよ。小学生たちは全然知らないんだけど、いつも会うと必ずこんにちはと声をかけてくれる。自分は大人なのにこんなにちはも言えないのかと思

う自分がいたので、今とはにかく挨拶は何処の場所でもしようと思っているのね。

・団地の行事以外に参加することも少ないので、団地の中に何か欲しいなと思っている。何か情報

にはドア迄出られないお宅とか、出てきても即ドアを閉めてしまわれるなど、もちろん対応は自由なんですけど、門前払いというのも経験してきました。2年目ぐらいから顔見知りになって、自然に会話が出るようになって

いらっしやるか分からないという人もいます。お歳を召している方は、全棟の芝刈りや手抜き除草にも全然でてこないというのね。そういった方に少しは交わろうよという方向にいくのは難しいんですけど、民生委員の研修である団地では孤立死のあることを知った。この団地は割とオープンな感じはあるけど、この方はお一人で住んでいてご家族やお知り合いとの交流が全くなかったとのこと。お一人で暮らしている方は周りが何と見てあげないと、孤独死などが起こったら皆が嫌な思いをしますよね。それを防ぐために気兼ねしないで集える憩いの場のなものがあるといいですね。ペランダに目印を出して元気がどうかを知らせる働きかけをしている地域もあると聞いています。どういふことがいいのか地域地域で皆が考えていかなければならない問題なので、この場での話し合いを大事にしたい。

に手抜き除草に出ることだつてできなくなつてしまふ。人になるべく会わないようにしたり、最低限の買い物に行く程度になつてしまふ。今年は夏祭りにも行かなかつたわ。

「どんな関係が必要でしょうか。こんなことがあったらいいと思うことがありますか。」

・棟長さんが把握してくることに期待するのですが、無理でしょうか。

・芝刈りや手抜き除草の時出欠をとるじゃないですか、その時棟長さんが顔を覚えてくれればいいのですが、数が多い所なんかは大変よね。

・今年階段委員の役割が示されたのは、これからの棟運営というか、棟のあり方を描いてのことでしょう。棟長さんが全部のことを把握するのは大変だから、階段委員さん

と協力し合つて進めてほしい、ということだと思えます。出てくると民生委員とのコミュニケーションにも生きてくるしやりやすくなるかも。もちろん民生委員と自治会は直接関係がないですけど。

・棟での集まりも最初の頃はあつたけれど、出入りが繰り返されているうちに顔なじみも減つたり、仕事の関係で近所とも会うこともなくなつたりで、この十数年全くなくなつてしまつた。家族構成、働き方、グローバル化もあるし、賃貸でという方もあり、入居条件もいろいろと要因が変化しているから、集まれないのは高齢者が増えたからだけではないように思う。

・大体の人が迷惑かけないように生きていますよ。強がっているわけではないのだから、強がっていいから、集まれないけれど・・・

・あんまりいられたくないというか干渉されたくないわね。というのが本音かな。どうしても駄目だと思つた時にはお願ひせざるをえないけれど、それまでは自分でやっていきたいと思うのではないかな。

団地の高齢化を考えました



報が全くないのも寂しいものよ。

・以前民生委員をやつていて、お年寄りのお宅を訪問してお話を聞いてきたりしたんですけど、中

るんですけど・・・顔見知りになることがとても大事で、1回では無理でも何回も挨拶なり声かけが大事なんだということを学んだんですね。

・隣にどんな方が住んで

- ・チャイムが鳴ってもすぐ玄関に出られない時もある。台所なんかにはたらき返してはなくなっているなんていうのが多いのよ。
- ・私は年老いた叔母がいるんだけど電話を掛ける時、25回ベルがなるのを待っているの、足も悪いしすぐに出られないというのがわかってはいるから。
- ・高齢化というのは若い時出来ていたものができなくなるといふ状態のことを言うのだと思うのね。生活のリズムとかか質が変化してくるから、その中でどんな手助けが出来るか考えたいです。

- ・お買い物はどうかなど話したりはするけど、人に頼り方も難しいな。
- ・寄り添うというのもしろいろ定義があるんですよ。
- ・新聞が3日溜まってたら声かけてね、と頼んでいるところもあるって聴きますが。

「豊かに生きるヒントがありましたらお願いします」

- ・70代なんて一番いいのよ。まだ花よ。私の場合で言えば仕事を辞めた60代の時70代になったらこれをしよう、と次の準備をした。70代では80代に

なったらこうなるのではと準備してきた。自分で計画を立てておくことが良かったと思っている。今そのことは少しづつ出来なくなってきたがそれはそれでそぎ取っていかばいいことだし、そうやって年齢を重ねている。定年となり仕事を辞めた時考え方を整理した。2年半のウォーキングと食事の改善を行い18キロ体重を減らした。20歳の体重になつていて。今92歳まで生きたいと目標を持っていて。30歳でこの団地に来て、60歳で定年30年刻みで人生を区切って上巻、中巻が終わり下巻に突入。30年後を考えて

ると90歳までになる。生きる目標を決めてみた。また働く場が出来たけど人が好きだから若い人たちとも上手くやれていると自我自費している。

のが持てなくなったり、カートも無理となった時買い物なんかは心配、どうするかと思う。お弁当の宅配もあるけど食材のことも心配になってやめたの。今は食材の個配を利用して。何気ない日常の話を気軽に話せるような場はいいよね。

たいですよ。見守り隊に入ったことで子ども達から元氣をもらった。外に出るのをためらっている人がいたら1時間ぐらいなので是非参加を進めたい。皆で会うことで視野が開けるといふか、いろいろなこと分かる。それが楽しい。子どもを見守っているはずが、子どもに見守られているのを感じる。

ではありませんが、有意義でした。災害時の対応はすでに始まっていますし、憩いの場的なものはすぐとはいきませんが、建物の耐震結果などを受けて検討されるようです。居住者一人ひとりが自分の出来る事で参加しながら住みやすい環境を作っていきたいですね。

(文：広報 佐藤)

☆護が私を成長させてくれた

23号棟 前原美智子

私は東京で生まれ東京で育ちました。まだ女性の働く場所も限られていた時代でしたが、芸能関係の会社に働いていました。そんな時母ががんになり余命6か月と宣告されたのです。27歳の時でした。母の介護を誰がやるか、私は二女なので私でなくても良かったのですが、やれる人がやればいいと私がやると声を上げました。それが私の介護の始まりです。仕事と病院の生活を続けることになりました。若かったことや恵まれた職場だっ

たこともあり母につくすことができたのです。結果的にその生活は3年間続きました。その後結婚新しい生活が始まって3カ月目に夫の父親が倒れました。長男の嫁から自分がやればいとその時も引き受けました。3年経ちました。その後千葉に居を移したのですが、移って半年目に今度は夫の母が倒れたのです。人に頼る事ではないとこの時も自分で引き受けました。そうやって3人の介護を9年間続けました。今思うとそういう役割に

生れついでいるのだと思います。平穏だった生活が続いていた時、突然夫が壊れてしまいました。この団地にきた大きな理由は、夫が壊れてしまったことにより買い物難民になってしまったからです。千葉での生活は30年でしたが、何かにつけ身内が近くにいる方が心強いかと、それまでの生活を精算して転居することにしたのです。

若くて未熟だったせいもあり、十分に出来なかつたという悔いとなって残っていました。夫に係わつて同じ後悔はしたくないと、未熟さを教えてくれた人たちへお礼をする気持ちも込めて夫の介護を精一杯しています。私の生きるテーマは楽しく穏やかに過ごすことなんだと指標も出来ました。夫の病氣は私を本当の意味で大人にしてくれています。

今日も夫に寄り添い車椅子を押しながら緑道を散歩し、穏やかな時間をかみしめています。(聞き手・佐藤公子)



んは、子どもは、

になりまし
た。お母さ
んは、子ど

に行ったら、たぐさんの人が来ていてとてもうれしかったです。夏休みの間、しばらく会っていない人が来てくれてありがたかったです。来年も花火大会をやりたいです。来て下さいます。コミュニケーションが大切です。来年もまたやらせて下さい。

うれしかった花火大会

小松碧 (四年生)

た来年も花火大会をやりたいです。

わたしは、今年の夏休みに、友達と団地の花火大会をきかきました。団地のえい画の内容を決めるかきぎで、コミュニケーション部の方たちが、「他にやりたい事があれば、やっていいよ」と

言ってくれたので、友達や相談にのってくれた名和さんたちときよう力して、花火大会をやることになりました。お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんな来てくれて嬉しかったです。花火が綺麗で、とても楽しかったです。来年もまたやらせて下さい。

この団地に来て1年、知ったこと近所はななくゼロからの出発になりました。だから棟長も引き受け人との係わりを求め表に出ていく事にしたのです。私にとって3人の介護は



夏を彩る思い出

夏は大人と子どもたちが出会える季節です。

第36回夏祭り

今年も沢山の人で賑わいました。



8月24日(日) 千代田公園



編集後記

▼この号の準備をしていた9月27日(土) 11時58分、長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が突然噴火した。テレビからはその模様がリアルタイムで映し出された。一瞬にして生と死が分かれた。この日は晴天で錦秋の山は美しかっただろうに。予知は無理だったのだろうか。素人はそんなことを単純に考えてしまう。火山学者というか研究者が少ないのだそう。そういう問題ではないだろう。110もの活火山が日本列島を縦断しているというのにこれも素人の言うことかもしれない。外野席で物を言うのは無責任極まりないが、災いは忘れた頃にやってくる、大震災から日本中の人が学んだものはなんだったのだろうか。

▼今号は高齢化社会を自分の生きている場で考えたいと紙面を作った。結論や方向付のようなものはないが、多世代が融合したやさしい団地をめざせたらと思う。ご意見や感想を是非お寄せ下さい。

(佐藤)